

□新規 ■継続 □継続【一部新規】

要 望 事 項	圏域交通ネットワークの機能強化と利便性・快適性の向上について
---------	--------------------------------

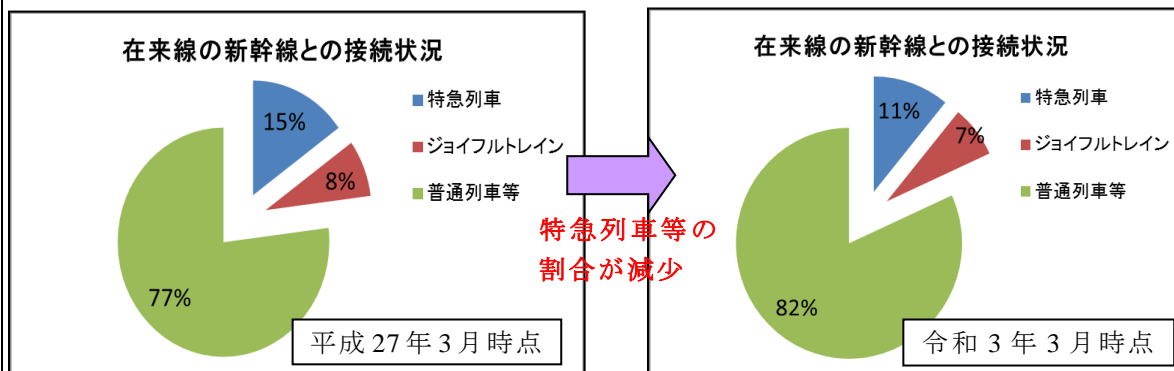
要 望 先	国	国土交通省鉄道局 東日本旅客鉄道株式会社
	県	企画政策部交通政策課 県土整備部道路課

要 望 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 奥羽本線弘前駅－青森駅間の複線化による機能強化について</li> <li>○ 利用者のニーズに合った普通列車の運行による利便性・快適性の向上について</li> <li>○ 普通列車と快速列車への座席指定枠の導入について</li> <li>○ 広域連携する自治体間の円滑な移動と交流できる環境づくりのための地域間道路の機能強化について</li> </ul>
---------	--

現 状 と 課 題 ・ 具 体 的 内 容 ・ 効 果 等	<p><b>【現状と課題】</b></p> <p>○ 奥羽本線は、「津軽海峡交流圏」形成に向けたラムダプロジェクトの根幹をなす津軽地域全体の幹線鉄道として、また、秋田市などの主要都市を結ぶ重要な幹線鉄道であり、県外からの観光・ビジネスの面で重要性を増してきております。</p> <p>○ しかしながら、奥羽本線弘前駅－青森駅間は単線区間が8割を超えており、複線化が十分に図られておりません。</p> <p>○ このため、列車の行き違いによる待ち合わせ停車が多く、通勤・通学等の利用者にとって大変不便であるほか、普通列車や快速列車の運行間隔が長いことにより、新幹線へのアクセスが悪い時間帯もあり、沿線地域の広域的な観光客誘致活動におけるマイナス効果が懸念されます。</p> <p>○ 東日本大震災において、東北地方の他の幹線鉄道の代替路線として、日本海側幹線ルート必要性が改めて認識されました。</p> <p>○ 北海道新幹線の開業や東北新幹線の高速化、並びに青森空港への国際線の就航増加等により、本県までの移動時間が短縮され、国内外からの観光客が青森</p> <div style="text-align: center;">  <p>津軽海峡交流圏の形成</p> <p>津軽海峡交流圏</p> <p>＜青森県 HP より＞</p> </div>
-------------------------------	--

県を訪れる機会や県民が首都圏や北海道、海外へ旅行する機会など、地域間交流が増えると見込まれます。

- 一方、新青森駅発着の新幹線45便に対して、秋田方面との特急列車が6便しか接続しておらず（令和3年3月13日ダイヤ改正以降）、観光客の利便性の向上や高速観光対応のためにも、基盤整備や秋田方面からのニーズに合った列車の運行は必要不可欠なものとなっております。



- このほか、地域住民や観光客等からゆったりと座って移動できる列車や列車内に大きな荷物を置ける場所の要望があることから、指定席の確保ができる普通列車や、荷物専用スペースの確保が可能な列車の導入など、移動空間が快適な車両の高質化などが求められております。
- 圏域市町村相互の移動時において、道路幅員狭隘区間や慢性的な渋滞等の混雑区間を部分的に改良することによって、定時性・安全性を確保することが求められております。また、良好な地域資源を結ぶネットワークが形成されていないことから、広域観光等における円滑な移動環境づくりが求められております。

### 【具体的内容】

部分複線化の早期着手による全線複線化への段階的な進展を実現させていただきようお願いいたします。

- ➡ ・複線化効果の高い区間（例：川部－鶴ヶ坂間）の複線化工事の早期着手

沿線地域住民の利便性向上及び沿線地域への観光客の誘客による地域間交流を推進するため、ニーズに合った普通列車を運行していただくようお願いいたします。

- ➡ ・圏域の利用者だけでなく、ビジネスや観光客のニーズに合った移動の利便性と快適性の向上

普通列車、快速列車の充実及び本県と秋田県や北海道などとの立体観光を推進するため、普通列車と快速列車への座席指定枠の導入による車両の高質化を実現していただくようお願いいたします。

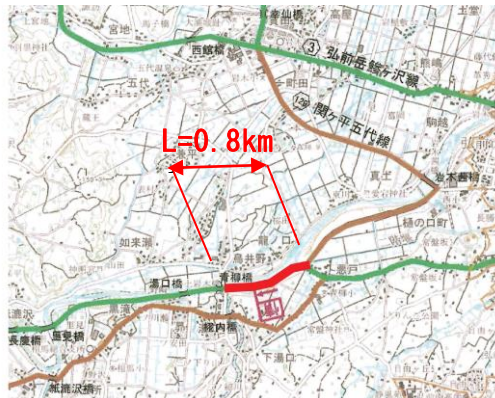


(例：座席指定枠)

➡ ・普通列車と快速列車への車両増設などによる座席指定枠の導入

圏域市町村相互を結ぶ道路の機能強化をお願いいたします。

➡ ・主要地方道岩崎西目屋弘前線（悪戸～上岩木橋区間）の道路幅員狭隘区間や危険箇所等を解消するため、安全対策や現道拡幅等の整備  
・県道前坂藤崎線のバイパス整備（県道太田藤崎線～国道339号バイパス区間）をすることにより、慢性的な渋滞等の混雑区間における渋滞の解消



<主要地方道岩崎西目屋弘前線>



<県道前坂藤崎線のバイパス整備>

### 【効果等】

- 新幹線からの二次交通としての機能強化及び利便性の向上が図られます。
  - ⇒旅行者等の満足度向上と誘客拡大
  - ⇒観光・地域間交流の活性化
  - ⇒利便性向上による沿線市町村の住民を含めた鉄道利用者の増加
- 県土形成軸の強化が図られます。
  - ⇒雪に強い安全・安心な都市間輸送の確保
  - ⇒環境にやさしい移動手段への利用シフト
- 日本海側物流ルート強化が図られます。
  - ⇒大規模災害にも対応した代替ルートの確保
- 圏域市町村の地域間を円滑に移動できることにより、地域間相互の連絡強化が図られ、物流の円滑化や広域観光等への支援など活力ある地域づくりにつながります。

津軽地域全体の産業経済の活性化と広域的な交流促進

現在までの主な経過・参考事項	<主な経過>
	<b>【奥羽本線】</b>
	昭和42年 弘前駅－撫牛子駅間複線供用開始
	昭和43年 弘前駅－石川駅間複線供用開始
	昭和45年 撫牛子駅－川部駅間複線供用開始
	昭和54年 川部駅－青森駅間設備投資計画運輸大臣認可
	昭和55年 第1期工事新大釈迦トンネル工事着工（大釈迦－鶴ヶ坂間6.2km）
	昭和59年 新大釈迦トンネル供用開始
	平成 4年 奥羽本線弘前駅－青森駅間の時間短縮に係る整備手法調査
	平成 9年 東北新幹線全線開業後の奥羽本線弘前駅－青森駅間の需要予測調査
	平成12年 青森県奥羽本線複線化促進議員連盟発足 青森県奥羽本線複線化推進対策合同協議会発足 青森県奥羽本線高速化検討委員会発足
	平成13年 奥羽本線弘前駅－青森駅間の技術的現状分析と整備手法調査
	平成14年 奥羽本線弘前駅－青森駅間の高速化具体化調査
	平成19年 青森県議会新幹線・鉄道問題対策特別委員会設置
	平成22年 東北新幹線全線開業
	平成23年 「青森県復興ビジョン」の「被災地への燃料補給のため、燃料輸送に貢献」として掲載
	平成24年 弘前発特急「スーパー白鳥95号」と函館発特急「白鳥96号」が弘前駅－函館間を乗り換えなしで運行 函館クリスマスファンタジーに合わせて12月15日は弘前駅発特急「白鳥95号」が、12月16日は函館発特急「白鳥96号」が弘前駅－函館駅間を乗り換えなしで運行
	平成25年 青函圏観光都市会議設立（青森市、弘前市、八戸市、函館市） 弘前駅発特急「スーパー白鳥95号」と函館駅発特急「白鳥74号」 函館駅発特急「白鳥96号」が弘前駅－函館駅間を乗り換えなしで運行 *弘前駅発特急「スーパー白鳥95号」は5月11日、12日も運行
	平成26年 3月のダイヤ改正により臨時特急「つがる」が廃止 北海道新幹線開業にあわせて、本県と道南地域をエリアとする「ディスティネーションキャンペーン」開催決定
	平成27年 JR東日本で「青森県・函館ディスティネーションキャンペーン」に合わせてリゾートしらかみに新車両導入を発表
平成28年 北海道新幹線開業 JR東日本で、平成29年5月1日から「TRAIN SUITE 四季島」の運行開始を発表 奥羽本線新青森駅に待合室新設	
平成29年 周遊型臨時寝台列車(クルーズトレイン)TRAIN SUITE 四季島運行開始	
令和 3年 奥羽本線弘前駅にラウンジ新設	

	<p><b>【道路整備】</b></p> <p>・主要地方道岩崎西目屋弘前線 平成27年まで 西目屋村より、現道の歩道整備及び拡幅要望</p> <p>・県道前坂藤崎線 平成15年 藤崎町より、県道前坂藤崎線（白子～国道7号線）バイパス整備要望 平成18年 県道前坂藤崎線（白子～国道339号）の現道拡幅要望 平成20年 人家連坦区間、弘前市道岩木川右岸環状線の開通等による交通量の増加に伴い県道前坂藤崎線（白子～国道339号）のバイパス整備要望 平成22年 事業着手（白子～国道339号） 平成31年 第1期工事完了、供用開始 令和 3年 第2期工事着手</p>
--	---

担当部課：弘前市 都市整備部地域交通課  
建設部土木課

<b>県の処理方針</b> (企画政策部 交通政策課)	
経緯	<p>奥羽線複線化等による機能強化について</p> <p>平成12年 8月 津軽地域の輸送幹線である奥羽本線の複線化等利便性向上対策について、沿線等15市町村長及び県議会奥羽本線複線化促進議員連盟による「青森県奥羽本線複線化推進対策合同協議会」設立</p> <p>平成12年12月 奥羽本線の利便性向上対策を積極的に推進するため、「青森県奥羽本線高速化検討委員会」を学識経験者、東北運輸局及びJR東日本と共に設置</p> <p>平成13年12月 第2回青森県奥羽本線高速化検討委員会において、調査方法等を検討</p> <p>平成14年 3月 奥羽本線弘前・青森間の技術的現状分析と整備手法調査</p> <p>平成15年 3月 奥羽本線弘前・青森間高速化具体化調査</p> <p>利便性・快適性の向上について</p> <p>平成16年度～22年度 青森県鉄道整備促進期成会等によるJR東日本に対する要望活動 ・東北新幹線全線開業時におけるリレー列車の整備等</p> <p>平成23年度 ・東北新幹線全線開業活用推進協議会設置 ・新青森駅在来線連絡通路への待合室の増設、ホーム上の防風柵の増強等</p> <p>令和 2年度まで 青森県鉄道整備促進期成会等によるJR東日本に対する要望活動 ・県内各線の輸送サービスの改善・充実 ・奥羽本線の利便性向上</p>

<p>処理方針</p>	<p>奥羽本線の機能強化（複線化・高速化）等については、青森県鉄道整備促進期成会等において、これまでも継続的にＪＲ東日本に対して働きかけてきたところですが、ＪＲ東日本からは、かねてから「全般的な利用状況が減少傾向にあり、現状の輸送量で十分対応できると考えており、直ちに複線化や高速化を行う考えはない。」との回答を受けているところです。また、利便性の向上については、非接触型ＩＣカード（Suica）について、令和５年春以降に弘前・青森間の１０駅に導入すると発表があったところです。</p> <p>このため、ＪＲ東日本に対して、沿線自治体と協力して奥羽本線の複線化・高速化を粘り強く働きかけていくとともに、当面の対策として既存の鉄道設備を効率的に活かした列車運行等による時間短縮や雪害対策の徹底による定時運行の確保等の利便性向上に重点を置いた要請を行っていくとともに、新青森駅からのリレー列車の整備・充実及び優等列車の拡充や車両のグレードアップ化等による一層の輸送サービスの改善・充実、ＩＣカードの導入エリア拡大等についても引き続き要請していきたいと考えています。</p> <p>県では、北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」の開業を契機とした「津軽海峡交流圏形成」に向けた「λ（ラムダ）プロジェクト」に取り組んでいます。奥羽本線はこの「λ（ラムダ）プロジェクト」の根幹をなすルートであることに鑑み、東北新幹線の一層の利用促進及び北海道新幹線利用による本県と北海道道南地域との交流人口の拡大に向け、沿線市町村等と連携を取りながら、引き続きＪＲ東日本に対して働きかけていきます。</p>
-------------	---

<p style="text-align: center;">県の処理方針 <span style="float: right;">（県土整備部 道路課）</span></p>	
<p>経緯</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要地方道岩崎西目屋弘前線（悪戸～上岩木橋区間） 道路計画無し（悪戸側一部歩道設置済み 約200m） 直轄河川堤防を占用し道路敷きとしている</li> <li>○一般県道前坂藤崎線道路改築事業（白子バイパス） 平成22年 事業着手 平成31年 1期工区完了、2期工区（橋梁架替含む）着手 令和3年 道路改良工事</li> <li>○一般県道前坂藤崎線交通安全施設整備事業（葛野） 平成28年 事業着手 令和3年 用地補償・歩道工事</li> </ul> <p>※「弘前圏域定住自立圏」構成8市町村：弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村</p>
<p>処理方針</p>	<p>圏域市町村相互を結ぶ道路の機能強化については、交流を促進させ、圏域全体の活性化にもつながるものと考えております。</p> <p>道路幅員狭隘区間や危険箇所等への対応につきましては、毎年行っている防災点検等の結果や、国が取りまとめた重要インフラの緊急点検の結果及び対応方策等を踏まえ、計画的に対策を進めているところです。</p> <p>岩崎西目屋弘前線の要望につきましては、今後の交通量の推移等を踏まえながら整備の必要性を含めた検討が必要と考えております。</p> <p>また、前坂藤崎線のバイパス要望につきましては、現在、一級河川平川に架かる藤崎橋の架替事業及び葛野工区における交通安全施設整備事業を進めていることから、事業の進捗状況を踏まえて検討して参ります。</p>